

# 令和6年第3回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 令和6年3月13日(水)  
午後3時00分～午後4時25分
2. 開催場所 柏原市教育委員会 会議室
3. 出席した委員 教 育 長 新 子 寿 一  
教育長職務代理 田 中 保 和  
委 員 近 藤 温 子  
委 員 西 村 弥 生 子  
委 員 太 田 貴 之
4. 出席した職員 教 育 部 長 桐 藤 英 樹  
教 育 監 中 平 好 美  
教 育 総 務 課 長 栗 田 聖 子  
指 導 課 長 小 室 吉 昭  
学 務 課 長 北 野 典 子
5. 議 事 案 件  
議案第3号 令和6年度柏原市立学校園管理職人事について  
議案第4号 令和5年度かしわらっ子はぐくみテストの結果の公表内容について  
議案第5号 令和5年度中学生チャレンジテスト(1、2年生)の結果の公表内容について
6. 報 告 事 項
7. 会議録の承認及び会議の要旨

新子教育長:お揃いでございますので、令和6年第3回定例教育委員会会議を開会します。  
本日の会議録署名委員は、西村委員にお願いいたします。次に、事前に送付させていただいております会議録につきまして、ご意見等ございませんか。

委員全員:なし。

新子教育長:それでは、会議録は承認することにいたします。本日の議事に入ってまいり

ます。本日の議事案件は3件です。どうぞよろしくお願ひいたします。本日1つ目の議案、第3号でございますが、人事案件ですので、非公開にて審議したいと思ひますが、よろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

新子教育長：それでは、議案第3号令和6年度柏原市立学校園管理職人事については、非公開といたします。議案の審議に入っております。議案第3号について、学務課北野課長より説明をお願いします。

北野課長：（議案第3号について説明）

－質疑応答－

新子教育長：審議の結果、議案第3号について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

新子教育長：それでは、議案第3号令和6年度柏原市立学校園管理職人事については、原案どおり承認することといたします。続きまして、議案第4号について、指導課小室課長より説明をお願いします。

小室課長：議案第4号令和5年度かしわらっ子はぐくみテストの結果の公表内容について指導課よりご説明申し上げます。ご説明の前に、訂正と差替えがございます。別添の冊子をご覧ください。まず5ページですが、全面的に削除、15ページについては差替えになります。内容については、後ほどご説明します。

まず、表紙をめくっていただいで1ページには、例年どおり調査の目的と本年度の実施概要を掲載しております。なお、対象学年は3年生から6年生でございます。2ページからは具体的な結果になります。まず本年度の市全体の結果です。毎年申し上げておりますが、ここで比較する全国といひますのは、業者によるモニター実施校と、同時期に実施しました学校の集合体という意味であり、全国全ての小学校という意味ではないことをご承知おきください。おおよその数ですが、全国で15%程度、大阪府では10市町、400校程と業者から聞いております。上段が国語、下段が算数になります。青色が柏原市の結果でございます。平均正答率で見ますと、国語では4年生、算数ですと5年生が全国を上回る結果となりました。

3ページからは同一児童集団の成長についてです。まず国語ですが、4、5年生は昨年度に比べ上昇しましたが、6年生は下降し、全国平均を下回る結果となりました。4ページは算数になります。4年生は全国より低いながらも、3年生時よりは伸びております。5年生は昨年より大きく上昇し、全国平均を上回る結果となりました。6年生は国語同様下降しており、全国平均を下回っております。

次の5ページについて、削除の理由としまして、本市はこれまで、重点目標として「書く力」に特化しており、記述式問題のスコアと「思考・判断・表現等」の観点を検証してございました。「思考・判断・表現等」の標準スコアについては、ここでは、全ての学年、全ての教科を合わせた値であります。各教科、各学年で、「思考・判断・表現等」の正答率、また、記述式についても学年ごと、教科ごとに結果が出ており、合わせるこの意味が不明確である点でございます。そこで削除したいと考えております。ご意見がご

ございましたら、よろしくお願いいたします。先に続けます。

次のページからは各学年及び教科ごとの結果について見ていきます。なお、各ページには課題の見られた設問を載せておりますが、調査問題についてのホームページによる公表は、著作権の関係で掲載できませんので、今年度からは、問題の内容、出題のねらいについて、文章表記にすることにしました。なお、本委員会では、冊子を用意しておりますので、そちらをご覧ください。

では3年生の国語から順番に説明いたします。6ページは3年生の国語です。全ての分類で下回っており、グラフで見ましてもひと回り小さいことが分かります。問題冊子を準備しましたのでご覧ください。これは、小学校3年生の問題ですが、今回、課題が見られたところは、赤の付箋、大問1(1)(2)になります。問題の内容としては、「話し合いの内容を聞き取る」となります。

7ページは算数です。正答率は全国をやや下回っています。基礎の部分に課題が見られます。青の付箋をご覧ください。4けた－3けた＝3けたの繰り下がりのある問題になります。全国と比べて10ポイントほどの差がございました。

8ページは4年生の国語です。正答率は全国を上回っています。領域別にみると「書くこと」、問題別形式でみると「記述式」が全国を大きく上回りました。課題のあった問題としては、「調べて分かったことを発表する」の問題内容です。正答率は、27.8%と全国を上回っていますが、無解答率が16.5%と4年生のテストで一番高い問題になりました。オレンジの付箋をご覧ください。出題のねらいとしては、「情報と情報の関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している」となり、これからの子どもたちに、最も求められる力となります。

9ページは算数になります。全体の正答率は全国とほぼ同程度ですが、変化と関係の領域が、全国と大きく差が出ました。緑の付箋をご覧ください。出題のねらいとしては、「基礎量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶことができる」となります。

10ページは5年生の国語です。全体の正答率は全国と同じになります。赤の付箋をご覧ください。言葉の学習の問題内容では、修飾語の問題が全国より、下回っていました。

11ページは算数です。全体の正答率、項目ごと、同一集団での経年比較でも、上昇しており、一番良い結果となっております。課題の見られた設問については、先ほどと同じ、業者の設定値より低いという意味になります。全ての学年の中で、一番無解答率が高いことから、問題自体の難易度が高かったとも考えられます。青色の付箋をご覧ください。この問題が、無解答率が31.1%と高かった、平均の問題になります。

12ページは6年生の国語になります。正答率は全国を下回り、経年比較で見ましても下がっております。特に全国との比較で差が大きかったのは、領域別の「情報の扱い方に関する事項」で、9.3ポイントの差がありました。オレンジの付箋をご覧ください。(1)になります。ポスターを作るという問題で、出題のねらいとしては「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている」となります。

13ページは算数です。正答率は全国を下回りました。特に全国と開きがあったのは、

数と計算の領域になります。緑の付箋をご覧ください。(5)になります。真分数÷帯分数の計算になります。

14ページからはアンケート結果になります。赤色が柏原市の結果になります。全学年に共通してみられる特徴としては、「学習習慣」のスコアが全国と比較し下回っております。質問としては、お手元のiチェック3年生用、赤の付箋をご覧ください。「テストで間違えた問題は、あとでやり直していますか」や「学校の授業以外で、週に何日ぐらい勉強していますか」などになり、全国学力状況調査と同じような結果となっており、本市の課題があらわれております。良い点としましては、どの学年も、「学級の絆」が全国を上回っています。

15ページは、1週間の読書量とはぐくみテストの関係をクロス集計した結果になります。学力調査の正答率を4等分し、上からA層、B層、C層、D層と分けています。全学年共通して、まったく読まないと回答した児童は、C層、D層に多い結果となりました。全く読まない集団が、C層、D層に多いことに焦点化するために、差替えをいたしました。

本市では、寄附金を活用し、今年度、電子図書管理システムを全学校に導入いたしました。学力向上の施策の一つとして、読書活動の推進も進めていきたいと思っております。

最後の16ページにはまとめとして、今回の結果を受けての「教育委員会としての今後の取組み」「学校における取組み」そして「家庭にお願いすること」を記載しました。説明は以上でございます。ご審議宜しくお願いいたします。

新子教育長：ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

太田委員：業者テストなので、業者の分析をうまく利用するのがよいと思いますが、業者がテスト問題を作っていて、無回答率が3割あると。全国でも無回答率が高い問題を出していて、何割目標を目途にしているのかは分かりませんが、それで無回答率が高いというのは業者の分析も一定あるのですか。

小室課長：あります。

太田委員：では、それが柏原市にも当てはまるということですね。

小室課長：そうです。目標値からすると少し課題があったのかなというところです。

太田委員：業者分析は、柏原市独自の分析や傾向についてもアドバイス等があったりしますか。

小室課長：業者からは分析データと結果に対する提案が来るので、それに対する対策を課で検討しています。

太田委員：かしわらっ子はぐくみテストが始まってからは、学年別で違いがありますが、概ね全国平均に近づいたり上回ったりといった感じですね。

小室課長：そうですね。今回、6年生は少し落ちていますが、5年生がぐっと伸びていています。

太田委員：5年生が伸びて6年生が落ちているという要因の分析は必要ですね。学校の雰囲気は良いが、学力は伸びていないというところの課題は何かという分析をお願いします。もうひとつ質問ですが、授業アンケートで先生の評価は今でも続いていますよね。

小学校も中学校も。その平均というのは他と比べたりできるのですか。

中平教育監：学校長が課題のある教員については観察を行います。教員の授業評価そのものを我々が行うことはありません。

太田委員：授業アンケートの結果は基本的には各教員にフィードバックされていると思いますが、管理職によっては、フィードバックを返せていない方もおられるかなと思います。客観的に、授業が子どもたちにどのように見られているのかを知ることは大事だと思います。

小室課長：4月からの成果が授業アンケートに出てきていますので、これも活用しながら各学校にある成果一覧を用いて各教員にお話しされる学校長もいらっしゃると思います。

太田委員：全国学力テストと違って、実施校平均になるので、全国との差がどうかというよりも、独自のテストをしっかりとクラス担任等にフィードバックしたり、市で分析を行っていくことが大事だと思いますので、よろしくお願いします。

新子教育長：他にご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

近藤委員：まず、かしわらっ子はぐくみテストが長い間実施できていることを嬉しく思います。長く続けられているから経年比較もできますし、一人ひとりに詳しい分析結果が出るので、お家で結果についてお話ししたり、難しい分析のやり方を一緒に考えることで読み取る力がついたりもするので、事業を継続できていることはありがたいことだと感じています。具体的にどのような結果が子どもたちの手元に行っているのかを教えてくださいたいのと、アンケート結果で「学級の規範意識」が低かったですが、i-checkのどの項目がそれにあたるのかを教えてくださいたいと思います。規範は大事だと思いますし、生活習慣とは違って、ちょっととしたことで上げていけるように思いますので、是非よろしくお願ひしたいです。

小室課長：今、手元に様式がなくて恐縮ですが、子どもたちの手元には自身の平均や弱み・強みが分かるようになっていると聞いています。また、i-checkのどの項目が紐づいているかの資料は我々の手元にはありますが、今すぐにはご提示できない状態です。はっきり分かる質問項目としては、「きまりを守りますか」や「授業中にクラスの人が騒いだりおしゃべりしたりしていますか」といったものがあります。

新子教育長：他にご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

西村委員：データも詳細に記載していただいております、分かりやすくなっていると思います。i-checkの結果を見ますと、6年生の結果が他学年と比べて違うかたちになっているのが気になります。特に「対人ストレス」や「いじめのサイン」での結果がふるわないかたちになっているので、そのあたりの要因について分析が必要だと感じました。年齢が上がってくるにつれて、こういったところが顕在化してきているのかもしれないですね。

小室課長：確かにそうですね。ありがとうございます。

田中委員：グラフの読み方として、6年生の「いじめのサイン」部分がへこんでいるということは、サインが出せていないということになりますか。

小室課長：関連の質問項目からしますと、サインが出しにくいということになります。

新子教育長：他にご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

委員全員：なし。

新子教育長：ないようでございますので、議案第4号について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

新子教育長：それでは議案第4号令和5年度かしわらっ子はぐくみテストの結果の公表内容については、原案どおり承認することにいたします。次に、議案第5号について、指導課小室課長より説明をお願いします。

小室課長：議案第5号令和5年度中学生チャレンジテスト（1、2年生）の結果の公表内容について、指導課よりご説明申し上げます。別添の冊子をご覧ください。それでは前から順番に結果の説明に移らせていただきます。

まず表紙をめくっていただき、調査目的についてはこれまでと変わっておりません。教科につきましては、1年生は3教科、2年生は5教科実施されたのですが、社会科と理科はAB問題の選択制となっておりますので、この後にお示しする結果については、その両方の平均点を足して2で割った数値にしていることをご承知おき願います。

それでは調査結果に入っております。まず1ページは、1年生の概要になります。平均点は、国語は府の平均点を上回りましたが、数学・英語は、府平均を下回っております。過去3年間の1年生と比べますと、昨年度より下降しています。

2ページは国語の結果で、平均点や経年変化の概要になります。得点分布で見ますと、40点未満の割合が府より小さい結果となっております。

続いて3ページは、府と比較して、「正答率が高かった問題」及び「低かった問題」と「無回答率が高かった問題」を記載しております。我が国の言語文化に関する事項が高く、無解答率も低い結果でした。正答率が府に比べ低い問題は、赤の付箋をご覧ください。「案内文に必要な項目（情報）を理解して書くことができるか」の問題になります。Bに入る言葉を漢字に二字で答える問題になります。

4ページは、数学になります。平均点は大阪府を下回りました。過去3年間の1年生と比べても、昨年より低い結果となっております。

5ページは、先ほどと同様、正答率が高かった問題、低かった問題、無解答率が高かった問題になります。数と式の領域で正答率が低く、無解答率が高い結果となっております。青色の付箋の問題になります。

6ページは英語になります。1年生において、平均点が大阪府を大きく下回った教科になります。過去3年間の1年生と比べても、低い結果となっております。得点別分布では85点以上の生徒が府より少ない結果となっております。

7ページは、先ほどと同様、正答率が高かった問題、低かった問題、無解答率が高かった問題になります。緑の付箋になります。「日常的な話題についてのまとまりのある会話を読み、内容の概要と要点を適切に把握することができる」という問題の趣旨になります。

8ページは、アンケートの結果になります。今年度から、質問項目が大幅に変更した

ため、経年変化の分析は行っておりません。

質問項目は、11問ですべて掲載しております。右端、府との比較で◎○が5、3ポイント上回っている、▽▼が5、3ポイント下回っている結果となり、問6が府より5ポイント以上上回っている、となります。逆に問4は5ポイント以上下回っております。

また、一番右端の、第3学年の緑色に塗りつぶされているものは、大阪府がクロス分析をした結果、教科の平均点との相関関係が指摘された問題となります。つまり、これらの問題に対して、肯定的回答をしている生徒集団ほど、平均点が高かったということでございます。1学年については、まだ府より分析結果が出ておりませんので、白色になっております。今後、分析が終わり次第、緑の部分が着色されることとなります。

結果の概要として、良かったところは、学級の雰囲気、他者との協働、挑戦心等において、8～9割程度の生徒が肯定的な回答をしており、7割以上の生徒が、日常的に短時間であっても読書をしているという結果でありました。一方、課題が見られるところとして、学習以外にスマートフォンやタブレットを日常的に長時間使っている生徒が多いと、3年生と同じような傾向が見られました。

9ページから11ページはグラフの詳細になります。12ページからは2年生になります。国語、社会、理科で大阪府の平均を上回る結果となりました。同一集団による経年比較でも、比較対象となる教科では、国語が上昇いたしました。前年度までの2年生との比較では、全ての教科で上回る結果となりました。

13ページをご覧ください。まず国語ですが、平均点は大阪府を3点上回り、同一生徒集団の経年比較で見ましても昨年度より上昇しています。

14ページ、正答率が高かった問題をご覧ください。赤の付箋になります。府と比較して、最も高かった問題になります。

15ページは数学になります。平均点は大阪府を1.1点下回っています。同一生徒集団で経年比較では、昨年度から大きく下降しました。得点別分布からは、15～35点未満の割合が府より大きく、80点以上の割合が小さい傾向が見えます。

16ページは特徴的な問題になります。一番下段は、今回のテストの全ての問題で最も無回答率が高かった問題になります。青の付箋をご覧ください。

17ページは英語になります。平均点は大阪府を大きく下回りました。同一生徒集団で経年比較でも下降しています。得点別分布からは、80点以上の割合が府より小さい傾向です。

18ページの特徴的な問題で、緑色の付箋をご覧ください。英文の大意を読み取る力、それと基本的な英文を書く力に課題があると思われれます。

19ページは社会、選択A（5校）と理科、選択Bの結果になります。1年生では実施がありませんので経年比較はできませんが、社会は府の平均点を1.4点上回り、理科は2.6点上回っております。

20ページはアンケート結果になります。結果の概要として、良かったところは、学級の雰囲気、他者との協働、挑戦心等において、8～9割程度の生徒が肯定的な回答をしている。7割以上の生徒が、日常的に短時間であっても読書をしている。また自分の学

習状況や学習内容を考えながら、家庭学習に取り組むことができているは、3年生では、肯定的な回答が府を下回っており、異なる傾向となりました。一方、課題が見られるところとして、学習以外にスマートフォンやタブレットを日常的に長時間使っている生徒が多いと、1年生、3年生と同じような傾向が見られました。

21ページから23ページはグラフの詳細になります。24ページは、今年度の総括と今後の教育委員会と学校の取組み、そして各家庭にお願いすることという点についてまとめております。基本的に3年生のチャレンジテストと同様の課題も見られましたので、それを踏襲するような形でまとめております。説明は以上でございます。ご審議よろしくお願いたします。

新子教育長：ご質問、ご意見等ございましたらお願いたします。

太田委員：小学校で英語に力を入れていると思いますが、最近読んだ本で、小さい時から英語を学ぶと、母語である日本語が疎かになってくるというのがあって、もちろん英語は喋れた方がよいに決まっているけれども、中学校からでもネイティブみたいに喋るようになれるといったことが書いてありました。直接は関係ありませんが、小学校から英語英語と言われ続けると早い段階で英語を嫌いになってしまい、中学校で壁に当たってしまうといったことも聞いたことがあります。学習指導要領で英語は教科になっているのでやらざるを得ないのですけれども。そのあたり、いかがでしょうか。

小室課長：強引に英語教育を推し進めているといった印象はありません。あくまで教科書の内容に則ってといったところです。傾向としてここ数年、ずっと英語の結果が低く、それがさらに下がっていったというのは問題視しておるところです。

太田委員：英語の授業研究は全体で活発にしておられますか。それが少ないといったことはありますか。一部だとは思いますが、昔ながらの英語の授業かなといった授業を行っておられる人もいらっしゃるのでは。

小室課長：英語担当で授業力向上のために定期的に集まっており、特に少ないといったことはありません。中学校でも英語が伸びている学校もあるので、学校間の格差が生じている現状です。

太田委員：以前もありましたが、やはり伸びている学校の良いところを共有していくことが大切ですね。実際に授業を見てみないと分からないと思いますので、見学等を増やしても良いのではないかと思います。

田中委員：他校の授業を見に行くというのはコロナ禍の下では制限がありましたからね。

太田委員：私が八尾市から柏原市に来た時の印象は、中学校の教員が他の学校に授業を見に行く機会が少ないなと感じておりました。小学校は活発に学校間でも授業を見に行つて情報交換を行っているけれども、中学校はクラブ活動等もあり、なかなかできていない状況でしたね。

田中委員：やはり良い成果が出ているものはどんどん共有していくのが良いでしょうね。逆に下がっている学校の原因は分かっているのでしょうか。

小室課長：指導主事が見に行ったり、担当者会の中での話によりますと、成績が上がっている先生は当然授業に様々な工夫を行っておられます。下がっているところでは、先ほ



ど太田委員もおっしゃっておられたように、昔ながらの授業であるのかなど。教職員の力量がかなり大きな影響を与えていると認識しております。

太田委員：学習習慣の定着がなかなか伸びていないということで、答え丸写しではないホームワークの出し方にも工夫があつてよいのかなど。また、このテストは1問あたりの配点が高いじゃないですか。1問間違ったらもう全国平均を下回ってしまいますよね。学校のテストって子どもたちを少しでも救うためではありますが、細かく問題を出して、中学校でも80問ぐらい問題を出すようなやり方をしていると思います。定期テストと全然違うものであることが良いのか悪いのか。問題形式はどちらが良い悪いはないと思いますが、検討は必要であると思います。

新子教育長：他にご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

近藤委員：1年生の英語の得点分布を見ると、中間層は大阪府とほぼ同数だったり少し多かったです。大阪府は上位層が上がっていつているのに柏原市は下がっていつています。全体的ではなく、上位層のみにこのような現象が出ていますが、何か原因や外的な要因が考えられますか。

中平教育監：原因については特に思いあたりませんが、英語についてはこのような分布になる傾向があります。

新子教育長：小さい時から英語を習いに行っているとかは原因としてあるかもしれませんね。

西村委員：問題を見ているとおもしろいものがたくさんあるなと思つていますが、太田委員がおっしゃっておられましたが、このチャレンジテストの内容というのは、高校受験に対する問題の内容とは大幅に違うのですか。

小室課長：大幅に違うことはございませんが、高校受験では府でも問題が違いますので、C問題になるとかなり難しいものになる等、かなり難易度の幅があると思います。

西村委員：課題をこなすので精一杯で、試験勉強ができなかったということも聞きますので、先生方の課題の出し方も変わってくると、子どもたちが忙しい中で捻出した時間の質も上がるのかなと思います。

新子教育長：他にご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

委員全員：なし。

新子教育長：ないようでございますので、議案第5号について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

新子教育長：それでは議案第5号令和5年度中学生チャレンジテスト（1、2年生）の結果の公表内容については、原案どおり承認することにいたします。本日の議事案件は以上です。

(指導課より入学式のご案内について、学務課より教職員の現況について、それぞれ報告)

以上で第3回定例教育委員会会議を閉会いたします。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

柏原市教育委員